

レジ袋有料化に思うこと

7月1日をもってコンビニのレジ袋が有料化された。プラスチック製ごみの削減を狙って、経済産業省が2019年12月容器包装リサイクル法の関係省令の改正に伴い実施されたものだ。

同様に、4月1日から廃棄物処理業者によるペットボトルの回収が停止された。プラスチック製品は手軽で便利なのであるが、プラスチック製品やレジ袋がいったん海に入り込むと、海洋ゴミとして海を漂い海底に沈み見込む。分解されるまでに1000年以上かかるとの研究もあり、環境にとっても長い間影響を与えることになる。そのために、海洋ゴミに絡まったり餌と間違えて食べることで、絶滅危惧種を含む700種の生物が傷つけられ、死んでいるようだ。

手軽で便利なプラスチック製品やレジ袋ではあるが、私たちの扱い次第で海洋汚染を進めていることを誰が想像できるだろうか。レジ袋を含めたプラスチック製品の、海洋汚染は30年後には海にいる魚と同等以上にまで増えると予想されている。

便利な生活に慣れすぎた私たちが、30年後はもっと便利な社会になっているのでしょうか。それとも、街中に無造作に捨てられたレジ袋やペットボトルの現状が改善されず、海洋汚染が悪化し私たちの食文化から魚料理に変化がみられるのでしょうか。今の美味しい魚料理を頂くために、せめてポイ捨ては改めたい。

(白石)

千年前に戻ってはいけない

今から千年以上前、平安時代に律令政治や儀式、朝廷や貴族の儀式・生活について事細かにとりまとめた「延喜式」の中には、人や家畜の死、出産などを「けがれ」として、忌み慎む日数が書かれています。「けがれ」は触れると伝染するとも考えられていました。科学的な知識や病気の治療法もなく、占いや祈祷に頼っていた時代です。

中学校社会科の歴史の教科書には、次のような記述がみられました。「……昔は、天変地異・死・出血・火事・犯罪など、通常の状態に変化をもたらすできごとにかかわることを『けがれ』といいました。『けがれ』をおそれる観念は、平安時代から強まり、『けがれ』を清める力をもつ人々が必要とされていきました。しかし一方で、清める力をもつ者は異質な存在として、差別を受けるようにもなりました。……」

今年、新型コロナウイルスに感染した人をはじめ、医療従事者、消毒や清掃など感染拡大防止のために懸命に働いている人々や、その家族に対して、差別的な扱いがなされる事件がいくつも報道されています。

科学が発達している現代に、古代から中世にかけてと同じことが繰り返されているのです。長い歴史の中で、人権が大切にされるようになったのはわずかな期間で、日本国憲法ができてからです。一部の間違った情報やウイルスに対する不安から、人を差別したり、排除したりすることは、人権という考え方がなかった時代と同じです。我々は千年前に戻ってはいけない。

(竹下)

新着図書紹介



マンガ「アフリカ少年が日本で育った結果」 著者：星野 ルネ 発行所：毎日新聞出版

アフリカで生まれ日本で育ってきた著者が、外国人であり日本人でもある立場から見た日本社会を、明るく軽快な漫画で表現しています。偏見や好奇の目にさらされた学生時代、カメルーン人の母親の言動、幼なじみの優しさ等、笑いあり、感動ありの多彩なエピソードが1ページずつにまとめられています。日本人に内在する外国人への思い込みや偏見に考えさせられます。次作のファミリー編も同時入荷しています。

新着DVD紹介



シリーズ映像でみる人権の歴史 第7巻 ※字幕版付き 小学生版と中学生以上版を収録 「水平社を立ち上げた人々」 東映株式会社 教育映像部 2020年 作品 17分

第1章「『差別ではなく尊厳を』と訴えかけた人々」では西光万吉を中心に、第2章「子どもたちの訴え」では山田孝野次郎を中心に編集され、授業の補助教材や社会啓発を深める学習教材として作成されています。

このシリーズは、第1巻「東山文化を支えた差別された人々」から時代を追って第7巻まで揃っており、部落問題の歴史の基礎理解に役立ちます。

「ココロンセンターだより」No.81 発行：令和2年9月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162 E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロンセンター 福岡 検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

法務省委託事業

CONTENTS「主な内容」

- ハートフルフェスタ福岡2020..... 1P~2P
- ココロセミナー(第一回)の報告、人権擁護委員の表彰... 3P
- 人権啓発推進指導員のコーナー、新着図書、DVDの紹介... 4P



ハートフルフェスタ福岡 2020

~ココろふれあい、ココろ温まる日~



テーマ ▶ ひとつひとつ、少しずつ。~自分らしく前へすすむ~

少しずつ前に進んでいけば、きっと目標に手が届く。そう信じて競技者生活を続けてきました。大学時代には摂食障害になり、苦悩の日々を送りながらも自分の夢を信じ続け、世界で戦える体を再び手に入れました。強い自分も弱い自分も素直に受け入れ、ひとつひとつ、少しずつクリアしていく事の大切さをお話しできればと思います。

講師 ▶ ^{すずき} ^{あきこ} 鈴木 明子氏 (プロフィギュアスケーター)



Profile

愛知県出身。6歳からスケートを始める。15歳で全日本選手権4位となり注目を集める。10代後半は体調を崩し、大会に出られない時期もあったが、2004年に見事復帰。念願のバンクーバーオリンピック代表の座を勝ち取った。2010年バンクーバーオリンピック8位入賞。多くの感動を生んだ。2012年世界選手権銅メダル獲得。27歳での世界選手権メダル獲得は、日本最年長となった。2013年全日本選手権では、会心の演技で13回目にして初優勝。2014年ソチオリンピックでは2大会連続の8位入賞を果たした。

日時 ▶ 2020年9月19日(土) 14:00~15:30(13:30開場)

会場 ▶ ソラリアステージ6階 西鉄ホール (福岡市中央区天神2丁目11-3)

定員 ▶ 230名(事前申込制) 申込み方法は裏面をご覧ください 手話通訳・要約筆記あります

お問い合わせ ▶ 福岡市人権啓発センター TEL ▶ 092-717-1237 FAX ▶ 092-724-5162

ハートフルフェスタ福岡 2020

HEARTFUL FESTA FUKUOKA 2020

鈴木明子氏 講演会

講演会申込み方法



WEBで申込み(特設サイト)

〈申込締切〉9月6日(日)必着



【抽選結果は9月10日頃までに通知します。】



往復ハガキで申込み

〈申込締切〉9月6日(日)必着

申込者及び同伴者1名の氏名、住所、電話番号、メールアドレス、車いすの利用等の有無を記入の上、下記事務局まで郵送ください。

「ハートフルフェスタ福岡2020講演会事務局」
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-16-5
(株式会社読売広告西部内)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となる可能性もあります。

申込多数の場合

当日ご来場いただけない方にも
ご覧いただけるチャンス!

講演会の録画を
YouTubeにて配信いたします。
抽選に外れた方に
当URLをお送りいたします。

▶ 配信後2週間視聴可能
2次使用、無断転載禁止

会場へのアクセス



お問い合わせ先 福岡市 人権啓発センター 092-717-1237 平日10:00~17:30

新型コロナウイルス感染症を理由とした 心ない言動が広がっています

不当な差別・偏見・いじめをなくしましょう
～冷静な行動、助け合い、支え合いが感染症を防ぎます～



主催：ハートフルフェスタ福岡実行委員会（NPO法人福岡市障害者関係団体協議会、公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団、公益社団法人福岡市老人クラブ連合会、福岡市七区男女共同参画協議会、福岡市民生委員児童委員協議会、福岡人権擁護委員協議会、ハートフルフェスタ福岡企画委員会、福岡法務局、福岡市）

ココロセミナー(第1回)

部落差別はなぜ起きるのか～これからの同和問題～

7月19日に第1回ココロセミナーを開催し、福岡県人権研究所理事長の新谷恭明さんに、「部落差別はなぜ起きるのか～これからの同和問題～」をテーマに講演していただきました。

最初に、2016年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」についての説明があり、現代の人権問題を歴史的要因から見直してみようと講話が始まりました。被差別民とは誰か、江戸時代の身分制度、近代社会の部落差別、これからの同和問題の解決に向けた取り組みについてと話が進みました。講話の中で、新谷さんが強調されたことが2つありました。「ウチ・ソトの関係」と「ふたつのモノサシ」です。

○解放令以後も「ウチ・ソトの関係」を意識する差別が残った

江戸時代は、支配階級の武士と都市に住む町人、農村に住む百姓は「ウエ・シタの関係」であったが、武士・町人・百姓とえた・ひにんは、「ウチ・ソトの関係」であった。このような「ウチ・ソトの関係」で他者を『あの人たち』とくくる意識は、解放令以後も残り、えた・ひにんへの差別は解消されなかった。対照的に、もう一つの解放令と言われる「牛馬解き放ち令」では、年季奉公という名目の人身売買が禁止され、ウエ・シタの差別が解消されていった。他者を『あの人たち』でくくる意識は、現代における障がい者や高齢者、外国人、性的少数者等への差別にもつながっている。

○「ふたつのモノサシ」で人権問題を考える

初期の同和教育は、差別された者が差別する者に対して抗議をする「アイデンティティ・ポリティクス」であった。そこでは、差別の現実学ぶこと、差別とたたかう力を育てることが大切にされた。1995年から実施された「人権教育のための国連10年」では、人権は人類共通の文化だと定義され、人権文化は市民がみな持っているものとされた。これを「シティズンシップ・ポリティクス」という。人権問題は、「アイデンティティ・ポリティクス」と「シティズンシップ・ポリティクス」のふたつのモノサシで考えることが大切である。



▲ココロセミナーの様子

講話のまとめでは、部落差別（「ウチ・ソトの差別」意識）がなくなるまで、「部落差別の解消の推進に関する法律」に基づき、実態調査で問題を明らかにして教育・啓発、相談で解決していくことを継続していこうと訴えられました。アンケートでは「わかりやすく部落史を話してください、頭の中が整理できました。ふたつのモノサシもずっと入ってきました。」「2つの視点、アイデンティティ・ポリティクスとシティズンシップ・ポリティクスで考えていくことが大切であることを再認識できました。」等の感想が見られ、参加者に大変好評でした。

参加者の皆様には、検温、手指の消毒、マスク着用にご協力いただき、参加人数は収容定員の半分以上とし、座席の間隔を広くとりました。感染予防に留意をしながら、今後もココロセミナーを実施していきます。

講師



福岡県人権研究所 理事長
西南女学院大学 教授

しんや やすあき
新谷 恭明さん

人権擁護委員が表彰されました

令和2年5月19日に福岡市で開催された福岡県人権擁護委員連合会総会において、多年にわたって人権擁護活動にご尽力いただいた人権擁護委員のお二人が表彰されました。

法務省人権擁護局長表彰

今井 邦彦さん(早良区)

全国人権擁護委員連合会長表彰

森川 晴さん(西区)